

2019年度 日本泌尿器科学会 (JUA)/米国泌尿器科学会 (AUA) 交流プログラム

2019 JUA/AUA Academic Exchange Program 参加報告

中 村 美智子 (北海道大)

この度は、2019年度のJUA/AUA Academic Exchange Programで、シカゴで行われたAUA/SPU meetingと、オハイオ州コロンバスのNationwide Children's Hospital (NCH) に行ってきました。実は、このprogramへの応募は4回目ですが、今回もだめかなと思っていたので、採択していただきとても興奮しました。見学先は、昨年同programでNCHのDr. Chingが当科に約2週間滞在し、一緒に手術や外来を行ったことから、Dr. Chingの病院を希望しました。

シカゴでのAUAは、発表を聞くだけでもとても勉強になりましたが、以前国際学会で知り合った先生方に挨拶したり、当科からの参加者とDr. Chingと夕食をともにして旧交を深めたりしたことで、新たな知り合いが出来る有意義な機会となりました。

AUA終了後、コロンバスへ移り、4週間NCHを見学しました。NCHとの書類のやり取りは非常に面倒でしたが、おかげでカルテを自由に閲覧できるIDがもらえました。NCHは子供病院で、アメリカのpediatric urologyの9位にランキングされています。オハイオ州立大学のaffiliated hospitalということですが、病院がとても大きく、メインの建物だけで約2ブロック、他に研究所やいまだ建設中の建物があると2ブロックあり、病院正面のマクドナルドハウスも世界一、駐車場から病院への移動にシャトルバスが数ルート運行されていました。手術室も

24室あり、ダヴィンチも1台入っていました。今回は、手術見学をメインに、4週間で66件、精巣固定や環状切除、尿道下裂修復術、逆流防止術、腎盂形成術、導尿管や洗腸路造設などを見ました。尿路や再建手術では開腹の他にも腹腔鏡やロボット支援下の手術を行っており、症例数の割にはいろいろなパターンを見ることが出来、自分の手術とNCHの手術、開腹とロボットの違いなど、考えさせられることが多かったです。泌尿器科の手術の他にも、1才以下の腰椎麻酔や、小児外科のロボット支援下single portによる胆嚢摘出術、腸管を用いた造陰術も印象に残っています。アメリカンサイズのビッグな子も多く、100kgを超える症例も数例見ましたし、食生活や肥満の問題か、上部尿路結石の手術 (fTUL) も多く、今後は日本でも問題になるかなと思いました。NCHではスタッフとフェローまたはレジデントが2人で手術する場面が多く、後輩への指導の仕方も勉強になりました。看護師さんもレジデントに優しく、時間がかかっても急かすことなく温かく見守っている印象でした。外来の見学や週1回行われているカンファレンスにも参加させてもらいました。外来では、乳児の環状切除がとても印象に残っています。国際学会でたまに耳にしていたが実際に見るのは初めてで、陰茎ブロックを行い、おしゃぶりに砂糖水をつけてあやしながらの処置でしたが、赤ちゃんが痛みでギャン泣きしてたのが衝撃でした。通常は子供になるべく痛みや不安を与えないように処置や話をしていることとのギャップの激しさを感じ、やっ



AUA/JUA Academic Exchange Programの参加者、北大Dr. 守屋、Dr. ChingとAUA president receptionにて



シカゴでの当科参加者とDr. Chingとの久しぶりの再会



Dr. Ching, Alex と NCH 術場にて



Pediatric Urology Chief の Dr. Jayanthi と NCH 外来にて

ぱり赤ちゃんも痛いんだと再認識させられた出来事でした。外来では他に、性分化疾患を内分泌科やソーシャルワーカーとチームで対応するところとか、center for colorectal and pelvic reconstruction の外来ブースで、いろいろな科にわたる疾患を持つ子を、各科の先生や専門の看護師などが入れ替わり立ち代わり診るようなところも見学でき、症例数は少ないが難しい症例はこのような仕組みが出来ることも心強いと感じました（そこにはオハイオ州以外からも、さらにはアジアからの患者さんもいました）。他にも、土曜にブタを用いたロボット手術のトレーニングにも参加させていただき、右の腎盂形



Columbus のダウンタウン

成を最後までやらせてもらったこともとても勉強になりました。

コロンバスでの宿泊は、ホテルではなく Campus housing を利用しました。一軒家に短期で見学や研究に来た2～3人が同居するような形態で、自分はアルゼンチンやイタリア出身の方と生活をともにしました。病院周辺には German village など街並みがきれいなところが多く、週末は公園や川沿い、ダウンタウンや病院周辺をよく散歩しました。Dr. Ching は滞在中、いろいろ気にかけてくれて、手術や外来だけでなく、時間がある時には夕食やサッカー観戦、犬の散歩に連れて行ってくれ、コロンバス滞在に花を添えてくれました。NCH では、ブラジルから小児外科の先生も見学に来ていましたが、陽気な明るい先生で、どなたにも自ら声をかけ、肩をたたいて挨拶されていました。文化の違いはあると思いますが、術中など声をかけることをためらってしまうことがあったので、この積極性は見習いたいと思いました。NCH の先生方やスタッフはみんな親切で、質問に丁寧に答えてくれたり手術が見やすいようにしてくれたり、とても感謝しています。

今回の貴重な経験を、自分の診療技術の向上に役立てるだけでなく、後輩にも伝えていきたいと思いました。また、アメリカはとにかく病院で働いている人の数がとても多い印象を受けました。一人一人が professional な仕事を極めるためにはマンパワーも重要だと思いました。さらに滞在中に2人の先生がアフリカとインドへ手術支援に向かったことは、アメリカの懐の深さを知ったというか、自分の視野が広がる出来事でした。

最後になりましたが、このような貴重な体験ができたのも JUA/AUA 両学会の関係者、スポンサーの皆様、北海道大学泌尿器科の医局の先生方など、たくさんの方の支援・協力があつたからです。JUA/AUA のコーディネーターの方々にも大変お世話になりました。この場を借りて心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。